

24歳で夭折した樋口一葉。「奇跡の14か月」といわれるなかでも大成期に書かれた『十三夜』は、『大つごもり』『にごりえ』『たけくらべ』と並ぶ、文学史に残る名作です。「文語体の文章史に残る、和文派による文語文の最後の絶叫」とも称される美しい心理描写を芸歴47年の役者が、原文のまま、心地よいテンポで朗読する感動のドラマをお楽しみ下さい。

清雁寺 繁盛が読む

樋口一葉の世界

# 十三夜

ほか一作品

時は明治の中頃

十三夜の月が優しい光を放つ晩。高級官吏、原田の許に嫁いだお関は、供も連れずに上野新坂下の実家を訪れ、ふた親を驚かせる親が子を、子が親を思う心が揺らぐ**上の巻**

「さやけき月に風のおと添いてー」という音楽的な書き出しで始まる**下の巻**夫の許に戻る決心をしたお関が偶然乗った人力車の車夫は、昔の想い人録之助であった

とき：2024年10月13日（日）14:30 Start  
ところ：渡辺淳一文学館（14:00 Open）

札幌市 中央区 南12条 西 6丁目 414  
市営地下鉄南北線「中島公園駅」下車3番出口より  
徒歩8分 / 市電「中島公園通り」下車徒歩3分

料金：2,200 円（前売り）2,500円（当日）

主催：HANZYO ご最員の会

8月15日前売り開始

協力：あうえいく企画 HOKKAIDO

エルインベンション/KINTARO Cells Power/燦々倶楽部

チケットお申込み（お問合せ）：070-6454-5511 松浦



せいがんじ しげもり  
清雁寺 繁盛  
《劇団 前進座》